

学習指導に関する研究

～ 国語科における表現力の向上を目指して ～

足利市立教育研究所

1 趣旨

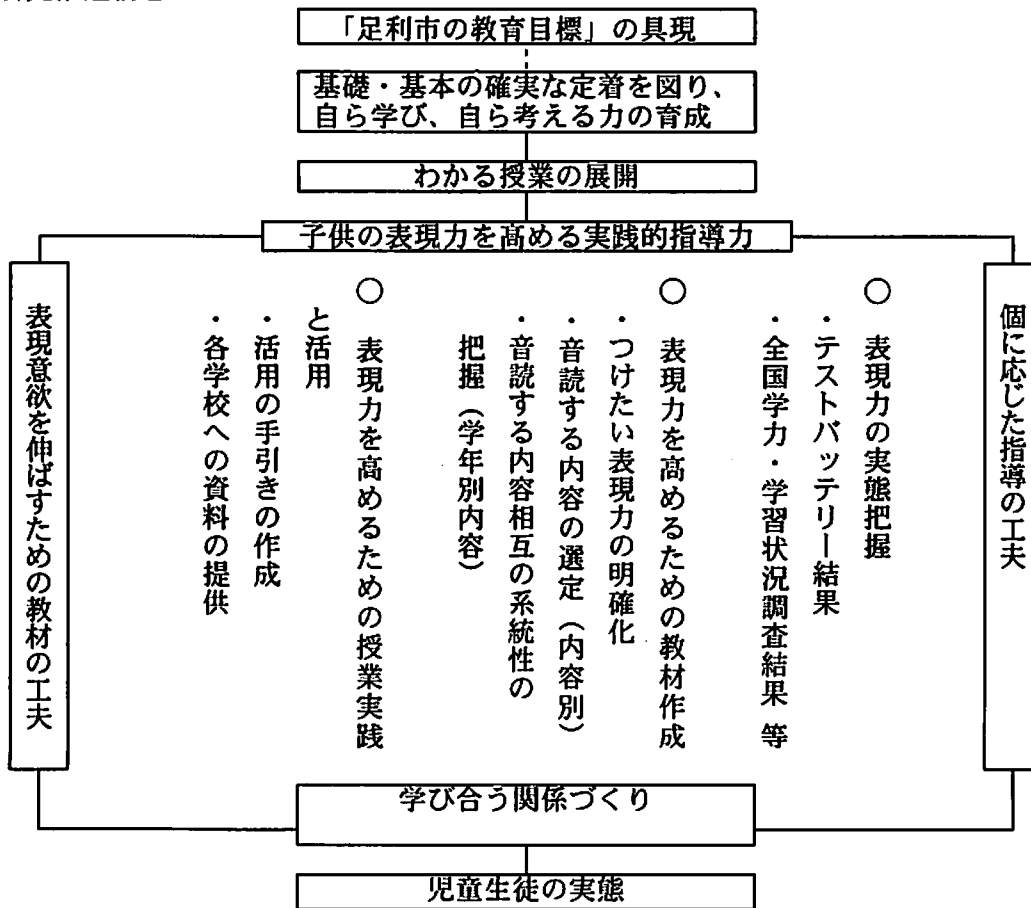
基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学び、自ら考える力などを育成することは、生涯学習を目指した学習指導の中心的な課題である。

本市においては、「足利市の教育目標」の52番に「基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける」ことを児童期及び青年期の重点目標として掲げ、その具現に向けて、教師の指導力向上のための学習指導ハンドブックの作成や学習指導研修会をはじめ様々な施策を実施している。また、各学校においても、子供の主体的な学びを大切にしながら、教えるべきことはしっかりと教え、学ぶべきことは根気強く学ばせる教育活動を展開するなど、学習指導の改善に日々努めているところである。

しかし、テストバッテリーや全国学力・学習状況調査などによる子供の学習状況等の実態把握からは、子供の表現力、特に目的や場面などに応じて自分の考えなどを述べたり、根拠を明らかにして説明したりする能力などについては、必ずしも十分ではないという実態もみられる。また、今回の中央教育審議会答申及び学習指導要領の改訂の趣旨も踏まえ、今後、国語科において、子供の言語能力を育成する指導を、より一層充実させることが大切になってくると考えられる。

そこで、子供同士あるいは子供と教師との学び合う関係づくりを基盤とし、教師自身が国語科の教材研究を更に深めることによって、子供の表現したいという意欲を伸ばすための教材の工夫や、個に応じた指導の工夫をとおして、わかる授業の展開に努め、国語科における子供の表現力を高めていく必要がある。なお、本研究においては小学生を対象とし、内容については、表現力を高めるための教材研究に重点をおいて研究を進めていきたい。

2 研究推進構想



3 研究の推進について

- (1) 平成 10・11・12 年度及び平成 13・14 年度研究員研究の成果を踏まえるとともに、平成 17・18・19 年度研究員研究「学習指導に関する研究」の成果を生かす研究とする。
- (2) 推進に当たっては小学校 6 年間の一貫とした研究としたい。
- (3) 研究会は、学校会場及び生涯学習センターを原則とする。
- (4) 研究の成果は、研究授業の指導案と授業研究の協議結果をまとめたものとし、各学校へ情報提供する。
- (5) 研究授業については市内各校への公開とし、授業研究会にも参加するよう呼びかけたい。

4 研究の内容

- (1) 小学校 6 年間の一貫した系統性のある研究となるよう、研究領域及び研究単元を決定する。
- (2) テストバッテリーや全国学力・学習状況調査の結果などを基に、子供の実態を把握する。
- (3) 「書くこと」における、つきたい力を明確にするとともに、作文内容を類別化し、系統的に力をつけられるように指導計画・評価計画を作成する。
- (4) 学習指導ハンドブックなどを参考にしながら、研究単元について教材研究を行う。
- (5) 教材研究を生かし、指導と評価の一体化を図りながらわかる授業の展開を目指した授業研究を実施する。

5 研究計画

<平成 20 年度>

- (1) 第 1 回研究会 6/20 (金)
 - 自己紹介
 - 研究構想・内容、研究計画の検討
 - 協議
- (2) 第 2 回研究会 1/29 (木)
 - 実践事例の発表
 - 協議
 - 今後の予定

<平成 21 年度>

- (1) 第 1 回研究会
 - 研究構想・内容・研究計画の検討
 - 協議
- (2) 第 2 回研究会
 - 第 1 回授業研究
- (3) 第 3 回研究会
 - 第 2 回授業研究
 - 研究の成果のまとめ

6 研究の流れ

(1) つけたい表現力を明確にするため「書く」單元においての研究を進めた結果

- ① 文や文章を書くことに慣れていない。
- ② 圧倒的に語彙が不足している。
- ③ 「書く」ことに慣れていないこと、及び語彙の不足から「自己を表現したい」という意欲につながらない。
- ④ 児童により、「書く」力の差が大きい。 という実態が明らかとなった。

(2) 「書く」力をつけるための考え方

(1) の実態より、

児童が多く、の文や文章に触れること

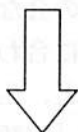
これがまず第一に大切であるととらえた。

(3) 文や文章に触れさせるための手だて

- ① 足利にゆかりのある作品（あいだみつをの詩、論語等）
- ② 昔から伝承されているもの
 - ・いろはうた
 - ・春の七草、秋の七草
 - ・月の異称（睦月、如月、弥生 等）
 - ・じゅげむ
 - ・十二支 など
- ③ だれもが知っていたい文学作品の一節
- ④ 是非知っていたい古典（漢詩も含む）の一節
- ⑤ 楽しいもの、心に響くもの、リズムを楽しめるもの、等



学校生活の中で、わずかの時間を割いて触れるものなので、短く無理のないよう継続して取り組めるようなものを選んだ。触れるといっても、ただ見ているだけでは子どもたちの心に残らない。



足利版小学生向き「声に出して読みたい日本語」を作成し、国語の時間の1～2分を使って継続してみんなで読み合うことが、語彙力を高め、ひいては表現力の育成につながるのではと考えた。

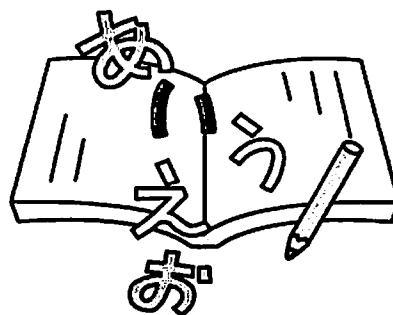
(4) 夏休み等を使って選び出したもの104の分類

(3)にあるようなものを選び出し、分類した。

- ① 低学年（あくしゅ・武鹿悦子 他26）
- ② 中学年（いっしょうけんめい・新川和江 他19）
- ③ 高学年（朝のリレー・谷川俊太郎 他11）
- ④ 古典・名作の部（論語① 他34）
- ⑤ 知っていたいことばの部（日にち 他9）

また、内容で分類し、子どもの実態やその時の気持ち、季節や状況等に合わせて選べるよう、配慮した。項目は以下のとおりである。

- ① リズムを楽しむ
- ② 季節を感じる
- ③ 命のうた
- ④ 友達
- ⑤ 勇気と希望と頑張り
- ⑥ 元気になる
- ⑦ やさしさ・思いやり
- ⑧ 自己をみつめて
- ⑨ 心がおちつく
- ⑩ ふしぎなうた



* 目次を添付したので参照されたい。

7 活用方法

別紙参照

8 成果と課題

成果

- ・楽しんで取り組むことができる。
- ・教師も子どもたちも自由に選択できる。
- ・国語の時間だけでなく、帰りの会や朝の会など、ちょっとした時間に取り組める。
- ・内容で分類できたので、子どもの実態に合わせやすい。
- ・暗唱大会や、休み時間での言葉遊びなど、生活への広がりが期待できる。
- ・新学習指導要領において打ち出された「言語活動の充実」に資することができる。

課題

- ・時間的な制約があり、継続して実行するのが難しい場合がある。
- ・どのように「書く」活動につなげていくか。
- ・活用方法について、さらに効果的な方法を検討していくことが望まれる。
- ・選んだ104のものについてさらに吟味し、精選していく必要がある。
- ・学校の実態に合わせ、地域で传承されているものなど加えていく余地がある。

目 次 (その1)

詩の部【()は作者名】

低学年

・あくしゅ (武鹿悦子)	1
・「あ」のつくひ (工藤直子)	2
・雨のうた (鶴見正夫)	3
・あめふりくまのこ (鶴見正夫)	4
・いち (谷川俊太郎)	5
・いるか (谷川俊太郎)	6
・おならはえらい (まど・みちお)	7
・かき (まど・みちお)	8
・かたつむり (リュウイ)	9
・木 (清水たみ子)	10
・きまりことば (阪田寛夫)	11
・五十音 (北原白秋)	12
・こわれたすいどう (谷川俊太郎)	13
・こんな じゃんけん しってる? (川崎洋)	14
・空にぐーんと手をのばせ (新沢としひこ)	15
・どきん (谷川俊太郎)	16
・年めぐり (阪田寛夫)	17
・食べもの (中江俊夫)	18
・ともだち (谷川俊太郎)	19
・なまけにんじゃーそれはもうひとりのぼくー (荘司武)	20
・早口ことばのうた (藤田圭雄)	21
・はる (谷川俊太郎)	22
・びりのきもち (阪田寛夫)	23
・ぼくはぼく (工藤直子)	24
・まっすぐについて (工藤直子)	25
・みんなをすきに (金子みすゞ)	26
・もうちょっと (有馬 敵)	27

詩の部

中学年

・ いっしょうけんめい (新川和江)	28
・ 海とかもめ (金子みすゞ)	29
・ 教室はまちがうところだ (蒔田晋治)	30
・ こえに だして (香山美子)	31
・ ごあいさつ (谷川俊太郎)	32
・ 雑草のうた (鶴岡千代子)	33
・ じめん (まど・みちお)	34
・ すき (谷川俊太郎)	35
・ 土と草 (金子みすゞ)	36
・ つもった ゆき (金子みすゞ)	37
・ 手をください (工藤直子)	38
・ はなび (工藤直子)	39
・ ふしぎ (金子みすゞ)	40
・ ほしと たんぽぽ (金子みすゞ)	41
・ 窓 (新美南吉)	42
・ 水のころ (高田敏子)	43
・ やま (谷川俊太郎)	44
・ よかったなあ (まど・みちお)	45
・ わたしと小鳥とすずと (金子みすゞ)	46
・ わらい (金子みすゞ)	47

詩の部

高学年

・ 朝のリレー (谷川俊太郎)	48
・ 雨ニモマケズ (宮沢賢治)	49
・ いのち (小海永二)	50
・ こころ (萩原朔太郎)	51
・ 心に太陽を持て (フライシュレン 山本有三訳)	52
・ 信じる (谷川俊太郎)	53
・ 竹のように (竹中郁)	54
・ 天 (山之口 ^{ぼく} 貌)	55
・ 道程 (高村光太郎)	56
・ はこ (谷川俊太郎)	57
・ はこ また (谷川俊太郎)	58
・ ぼく (木村信子)	59

古典・名作の部〔()は冒頭等〕

・論語① (かなろんご より抜粋)	60
・論語② (")	61
・論語③ (")	62
・春望 (国破れて山河在り～)	63
・春曉 (春眠暁を覚えず～)	64
・偶成 (少年老い易く学成り難し～)	65
・百人一首に挑戦①	66
・百人一首に挑戦②	67
・竹取物語 (いまは昔～)	68
・土佐日記 (男もすなる～)	69
・枕草子 (春はあけぼの。)	70
・源氏物語 (いづれの御時にか～)	71
・平家物語 (巻第一) 祇園精舎 (祇園精舎の～)	72
・平家物語 (巻第十一) 那須与一 (矢ごろ少し～)	73
・徒然草 (つれづれなるままに～)	74
・方丈記 (ゆく河の流れは～)	75
・奥の細道 (月日は百代の過客にして～)	76
・松尾芭蕉の俳句6選 (山路来てなにやら～)	77
・小林一茶の俳句5選 (瘦蛙まけるな～)	78
・与謝蕪村の俳句8選 (春雨やものがたりゆく～)	79
・正岡子規の作品3作 (柿くへば～)	80
・君死にたまふことなかれ (あゝをとうとよ～)	81
・我輩は猫である (我輩は猫である。名前は～)	82
・坊っちゃん (親譲りの無鉄砲で～)	83
・草枕 (山路を登りながら、こう考えた。)	84
・山のあなた (山のあなたの空遠く～)	85
・石川啄木の歌3選 (東海の小島の磯の～)	86
・元始、女性は太陽であった (元始、女性は太陽で～)	87
・伊豆の踊子 (道がつづら折りになって～)	88
・雪国 (国境の長いトンネルを抜けると～)	89
・走れメロス (「それだから、走るのだ。～)	90
・汚れつちまつた悲しみに…… (汚れつちまつた悲しみに～)	91
・雪 (太郎を眠らせ、太郎の屋根に～)	92
・アンネの日記 (千九百四十四年二月十二日～)	93
・変身 (ある朝、グレゴール・ザムザがなにか～)	94

知っていたいことばの部

・ 日にち	95
・ 数えかた	96
・ 早口言葉	97
・ 十二支	98
・ 陰曆十二月	99
・ 春の七草	100
・ 秋の七草	101
・ 寿限無	102
・ 「足利ふる里いろはカルタ」より	103
・ 相田みつを ころの曆「にんげんだもの」より	104

目 次 (その2)

リズムを楽しむ

・雨のうた (鶴見正夫)	3
・あめふりくまのこ (鶴見正夫)	4
・いるか (谷川俊太郎)	6
・きまりことば (阪田寛夫)	11
・五十音 (北原白秋)	12
・こわれたすいどう (谷川俊太郎)	43
・こんなじゃんけんしてる? (川崎洋)	14
・どきん (谷川俊太郎)	16
・年めぐり (阪田寛夫)	17
・食べもの (中江俊夫)	18
・早口ことばのうた (藤田 ^{たまお} 圭雄)	21
・もうちょっと (有馬 ^{たかし} 敵)	27
・ごあいさつ (谷川俊太郎)	32
・早口言葉	97
・春の七草	100
・秋の七草	101
・寿限無	102

季節を感じる

・「あ」のつくひ (工藤直子)	2
・かき (まど・みちお)	8
・はる (谷川俊太郎)	22
・窓 (新美南吉)	42
・やま (谷川俊太郎)	44
・春望 (国破れて山河あり~)	63
・春暁 (春眠暁を覚えず~)	64
・枕草子 (春はあけぼの。)	70
・松尾芭蕉の俳句6選 (山路来てなにやら~)	77
・小林一茶の俳句5選 (瘦蛙まけるな~)	78
・与謝蕪村の俳句8選 (春雨やものがたりゆく~)	79
・正岡子規の作品3作 (柿くへば~)	80
・雪 (太郎を眠らせ、太郎の屋根に~)	92
・陰暦十二月	99
・春の七草	100
・秋の七草	101

命のうた

・空にぐーんと手をのばせ（新沢としひこ）	15
・雑草のうた（鶴岡千代子）	33
・土と草（金子みすゞ）	36
・ほしと たんぽぽ（金子みすゞ）	41
・よかったなあ（まど・みちお）	45
・いのち（小海永二）	50
・信じる（谷川俊太郎）	53
・竹のように（竹中郁）	54
・君死にたまふことなかれ（あゝをとうとよ〜）	81
・相田みつを こころの暦「にんげんだもの」より	104

友達

・あくしゅ（武鹿悦子）	1
・「あ」のつくひ（工藤直子）	2
・雨のうた（鶴見正夫）	3
・いち（谷川俊太郎）	5
・木（清水たみ子）	10
・ともだち（谷川俊太郎）	19
・みんなをすきに（金子みすゞ）	26
・手をください（工藤直子）	38
・朝のリレー（谷川俊太郎）	48
・論語①（かなろんご より抜粋）	60

勇気と希望と頑張り

・空にぐーんと手をのばせ（新沢としひこ）	15
・まっすぐについて（工藤直子）	25
・いっしょうけんめい（新川和江）	28
・教室はまちがうところだ（蒔田晋治）	30
・雑草のうた（鶴岡千代子）	33
・朝のリレー（谷川俊太郎）	48
・雨ニモマケズ（宮沢賢治）	49
・心に太陽を持って（フライシュレン 山本有三訳）	52
・信じる（谷川俊太郎）	53
・道程（高村光太郎）	56
・偶成（少年老い易く学成り難し〜）	65
・相田みつを こころの暦「にんげんだもの」より	104

元気になる

・おならはえらい (まど・みちお)	7
・かたつむり (リュウイ)	9
・空にぐーんと手をのばせ (新沢としひこ)	15
・まっすぐについて (工藤直子)	25
・教室はまちがうところだ (蔭田晋治)	30
・わらい (金子みすゞ)	47
・朝のリレー (谷川俊太郎)	48
・雨ニモマケズ (谷川俊太郎)	49
・心に太陽を持って (フライシュレン 山本有三訳)	52
・竹のように (竹中郁)	54
・ぼく (木村信子)	59
・相田みつを ころの暦「にんげんだもの」より	104

やさしさ・思いやり

・あめふりくまのこ (鶴見正夫)	4
・みんなをすきに (金子みすゞ)	26
・こえに だして (香山美子)	31
・じめん (まど・みちお)	34
・すき (谷川俊太郎)	35
・つもった ゆき (金子みすゞ)	37
・ほしと たんぼぼ (金子みすゞ)	41
・水のころ (高田敏子)	43
・ころ (萩原朔太郎)	51
・心に太陽を持って (フライシュレン 山本有三訳)	52
・はこ (谷川俊太郎)	57

自己をみつめて

・いち (谷川俊太郎)	5
・なまけにんじゃーそれはもうひとりのぼくー (荘治武)	20
・びりのきもち (阪田寛夫)	23
・ぼくはぼく (工藤直子)	24
・じめん (まど・みちお)	34
・わたしと小鳥とすずと (金子みすゞ)	46
・竹のように (竹中郁)	54
・天 (山之口獺)	55
・はこ また (谷川俊太郎)	58
・ぼく (木村信子)	59
・山のあなた (山のあなたの空遠く～)	85
・汚れつちまつた悲しみに…… (汚れつちまつた悲しみに～)	91

心がおちつく

・あくしゅ（武鹿悦子）	1
・はる（谷川俊太郎）	22
・びりのきもち（阪田寛夫）	23
・ぼくは ぼく（工藤直子）	24
・まっすぐについて（工藤直子）	25
・みんなを すきに（金子みすゞ）	26
・こえに だして（香山美子）	31
・すき（谷川俊太郎）	35
・手をください（工藤直子）	38
・ほしと たんぽぽ（金子みすゞ）	41
・水のころ（高田敏子）	43
・よかったなあ（まど・みちお）	45
・わたしと小鳥とすずと（金子みすゞ）	46
・朝のリレー（谷川俊太郎）	48
・ぼく（木村信子）	59
・雪（太郎を眠らせ、太郎の屋根に～）	92
・相田みつを ころろの暦「にんげんだもの」より	104

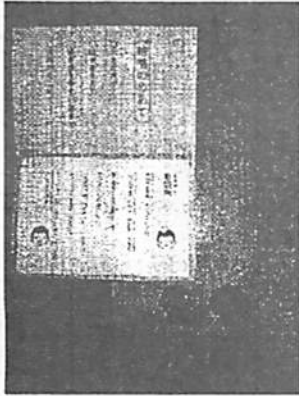
ふしぎなうた

・いるか（谷川俊太郎）	6
・こんな じゃんけん しってる？（川崎洋）	14
・はる（谷川俊太郎）	22
・海とかもめ（金子みすゞ）	29
・ふしぎ（金子みすゞ）	40
・ほしと たんぽぽ（金子みすゞ）	41
・天（山之口貌）	55
・ぼく（木村信子）	59
・雪（太郎を眠らせ、太郎の屋根に～）	92
・変身（ある朝、グレゴール・ザムザがなにか～）	94
・寿限無	102

暗唱カード 活用の手引き

この暗唱カードは、印刷をして児童に配付できるようになっています。活用の仕方は、いろいろとあると思いますが、例えば…

○暗唱カードを作る。

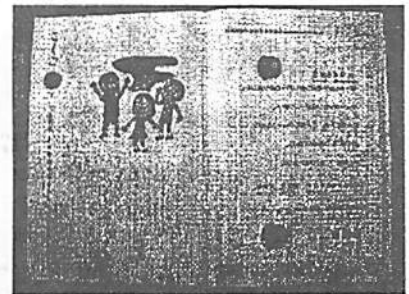


朝の会や帰りの会などに、暗唱の時間を設けて、クラス全員で暗唱をしてみるのもいいですね。

カードに「めあて」を印刷して、大きな声で、はっきりと、気持ちを込めて暗唱できるようになると、素晴らしいですね。

○教科書の表紙裏に貼る。

授業の最初にみんなで声を合わせて暗唱をすることで、学習へ取り組む意識付けができ、次の活動にスムーズに入ることができます。



○その他にも…



読み聞かせと平行して暗唱をしたり、教科書で扱われている作者の、他の作品として取り上げたりすることも考えられます。

暗唱カード 活用の仕方

1. 暗唱名人になろう

	題名	一回読むごとに ぬりつぶそう	友だち サイン	友だち サイン	先生の 合格印
1		①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳			
2		①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳			
3		①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳			
4		①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩			

- 先生から、プリントをもらったら台紙にはり、題名を書く。
そして、一回読むごとに①～⑳を一つずつぬりつぶしながら20回以上読む。
 - 完全に覚えられたら、友だちに聞いてもらい、まちがえずに、一気に言えたらサインをもらう。
 - 友だちのサインを二人からもらえたら、先生にカードを見せて、合格印をもらう。（先生の前で言って、言えると合格印がもらえます。）
- ☆自分の覚えたいものから、覚えていく。番号通りでなくてもよい。

2. みんなで声を合わせて

(1) 群読

クラスのみんなで、気持ちを一つにして、声を合わせて読んでみよう。

(2) リレー読み

1人（1グループ）で1フレーズずつ、順番に読んでみよう。

3. 読み方を工夫して

(1) 手拍子に合わせて

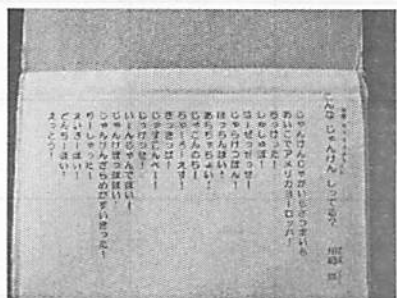
手拍子に合わせて、言葉のリズムを楽しみながら読んでみよう。

(2) 言葉の意味を考えて

言葉の意味を考えて、声の抑揚を工夫しながら読んでみよう。

暗唱カード 活用案

1. 暗唱カードを作る。



(写真1)

B5サイズに印刷して、児童に配付し、色画用紙に貼り付けました。

1, 2週間に一度、教師が選択した詩などを配付し、重ねていきました。

2. 活用例

① 授業の始め(2, 3分)に、クラス全員で声を出して練習してみると、学習活動にスムーズに入れました。

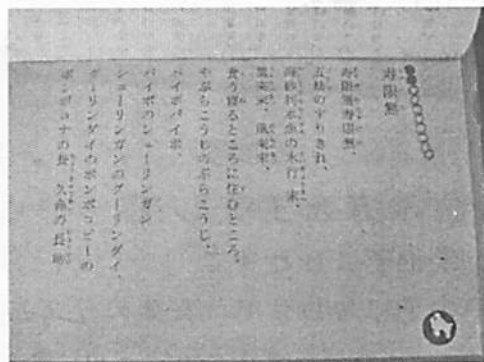
② 題の横に○を10個描いて、練習するたびに○を塗りつぶすようにしました。(授業がはじまる前や、家で練習する子も見られました。)

③ 暗唱ができると、合格シールを貼るようにしました。

(予告をしておいて、授業中に暗唱させました。

また、休み時間に、進んで暗唱テストを受けに来る子もいました。)

④ 暗唱の苦手な子には、短い詩(「あくしゅ」など)に取り組むよう声をかけたり、いくつかの詩の中から、好きな詩をたずねたりして、覚える意欲づけをしてみました。



(写真2)

作成した資料(抜粋)

作成した資料は、学年別に分類した(目次1)と、内容ごとに分類したもの(目次2)に分け、整理しました。本紀要には、その一部を掲載いたします。

言語力の育成のための教材として、お使いくださいますようお願いいたします。



あくしゆ

あくしゆは

てと ての でんわ

ことばが つたわる

こころが つながる

あくしゆは

てと ての でんわ

きれたあとまで

あたたかい

武鹿 ぶしか

悦子 えつこ

「あ」のしんむ

くどうなおこ
工藤直子

あめのひの

あそびした

あまがえるが

あっちから　ぴよん

あじわうに

あいました

「あ、あじわう　いじょうなほ」

「あふ、あまがえる　うんうんやう」

あまがえるよ

あじわいが

あめのふる　あれ

あじわうして　それからうんうんやう

あそびました

いっしよけんめい

新川しんかわ

和江かずえ

いっしよけんめい 泳およいだら

いつか 魚さかなになれますか

尾おひれが生はえて すいすいと

沖おきまで泳およいで ゆけますか

いっしよけんめい はばたいたら

いつか 小鳥ことりに なれますか

つばさが生はえて ゆうゆうと

広ひろいお空からが とべますか

いっしよけんめい 背せいのびをしたら

いつか ポプラに なれますか

みどりの葉はつばを そよがせて

風かぜとおはなし できますか

いっしよけんめい 咲さこうとしたら

いつか お花はなに なれますか

ひかりとお水みずに 愛あいされて

わたしもきれいに 咲さけますか

海うみとかもめ

金子かねこみすゞ

海うみは青あおいとおもってた、
かもめは白しろいと思おもってた。

だのに、今いま見る、この海うみも、
かもめのはねも、ねずみ色いろ。

みな知しってるとおもってた、
だけでもそれはうそでした。

空そらは青あおいと知しってます、
雪ゆきは白しろいと知しってます。

みんな見みてます、知しってます、
けれどもそれもうそかしら。

朝のリレー

谷川 俊太郎

カムチャツカの若者が きりんの夢を見ているとき

メキシコの娘は 朝もやの中でバスを待っている

ニューヨークの少女が ほほえみながら寝がえりをうつとき

ローマの少年は 柱頭を染める朝陽にウインクする

この地球では

いつもどこかで朝がはじまっている

ぼくらは朝をリレーするのだ

経度から経度へと

そうしていわば交替で地球を守る

眠る前のひととき耳をすますと

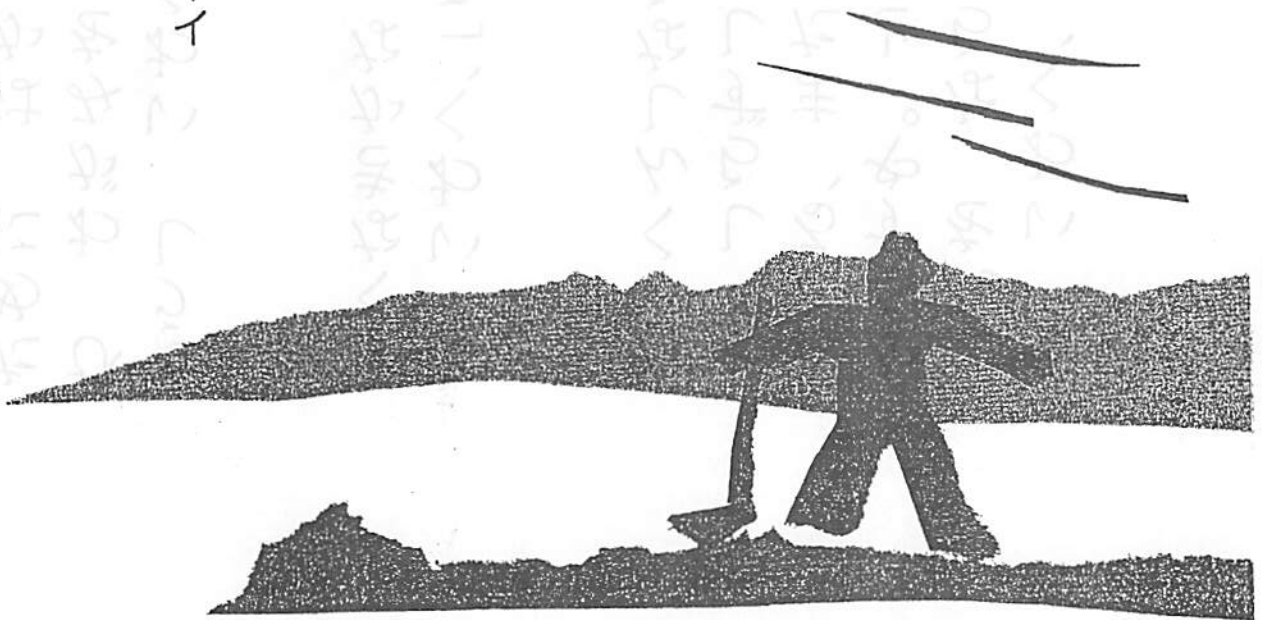
どこか遠くで目覚まし時計のベルが鳴ってる

それはあなたの送った朝を

誰かがしっかりと受けとめた証拠なのだ

雨一モマケズ

雨一モマケズ
 風二モマケズ
 雪二モ夏ノ暑サニモマケヌ
 丈夫ナカラダヲモチ
 欲ハナク
 決シテ瞋ラス
 イツモシズカニワラツテイル
 一日ニ玄米四合ト
 味噌と少シノ野菜ヲタベ
 アラユルコトヲ
 シブンヲカンジョウニ入レズニ
 ヨクミキキシワカリ
 ソシテワスレズ
 野原ノ松ノ林ノ蔭ノ
 小サナ萱ブキノ小屋ニイテ
 東ニ病氣ノコドモアレバ
 行ツテ看病シテヤリ
 西ニツカレタ母アレバ
 行ツテソノ稲ノ束ヲ負イ
 南ニ死ニソウナ人アレバ
 行ツテコワガラナクテモイイトイイ
 北ニケンカヤソシヨウガアレバ
 ツマラナイカラヤメロトイイ
 ヒデリノトキハナミダヲナガシ
 サムサノナツハオロオロアルキ
 ミンナニデクノボートヨバレ
 ホメラレモセズ
 クニモサレズ
 ソウイウモノニ
 ワタシハナリタイ



宮沢賢治

ろんこ

論語①

し いわく、「まなびて ときに
これを ならう、また よろこばし
からずや。ともあり、えんぼうより
きたる、また たのしからずや。ひ
と しらずして いきどおらず、ま
た くんしならずや。」と。

し いわく、「こうげん れいしよく、
すくなきかな じん。」と。

そうし いわく、「われ ひに みた
び わがみを かえりみる。ひとの
ために はかりて ちゆうならざる
か。ほうゆうと まじわりて しん
ならざるか。ならわざるを つと
うるか。」と。

春はあけぼの

清少納言

【枕草子】

春はあけぼの。

ようよう白くなり行く^ゆ

山ぎわすこしあかりて、

むらさきだちたる雲の

ほそくたなびきたる。

はる
春の七草 ななくさ

せり なずな

ごぎよう はこづら

ほとけのざ

すずな すずしろ

これぞ七草 ななくさ

寿限無じゅげむ

寿限無じゅげむ 寿限無じゅげむ、

五劫ごごうのすりきれ、

海砂利かいじやり水魚すいぎよの水行末すいぎようまつ、

雲来末うんらいまつ、風来末ふうらいまつ、

食くう寝ねるところに住すむところ、

やぶらこうじのぶらこうじ、

パイポパイポ、

パイポのシューリンガン

シューリンガンのグーリンダイ、

グーリンダイのポンポコピーの

ポンポコナの長ちようきゆうめい 久命ちようすけの長助

平成20年度研究員

榊原 洋平 (青葉小学校)

大貫 響子 (毛野小学校)

大澤美智子 (山辺小学校)

植木 美穂 (三重小学校)

一瀬 清美 (小俣小学校)

主担当研究職員 関根 景子

平成21年度研究員

榊原 洋平 (青葉小学校)

大貫 響子 (毛野小学校)

大澤美智子 (山辺小学校)

片貝 智子 (三重小学校)

一瀬 清美 (小俣小学校)

主担当研究職員 関根 景子